

CentreCOM

HS814TX V1

ユーザーマニュアル

安全のために



必ずお守りください



警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により、死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

本製品は、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。火災や感電、けがの原因となります。



分解禁止

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

感電の原因となります。



雷のときはさわらない

異物はいれない 水は禁物

火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(当社のサポートセンターまたは販売店にご連絡ください。)



異物厳禁

通風口はふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因となります。



ふさがない

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。



設置場所注意

表示以外の電圧では使用しない

火災や感電の原因となります。
本製品は AC100 - 240V で動作します。
なお、本製品に付属の電源ケーブルは 100V 用ですのでご注意ください。



電圧注意

正しい電源ケーブル・コンセントを使用する

不適切な電源ケーブル・コンセントは火災や感電の原因となります。
接地端子付きの3ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付きの3ピン電源コンセントに接続してください。



3ピンコンセント

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。



たこ足禁止

設置・移動のときは電源プラグを抜く

感電の原因となります。



プラグを
抜く

電源ケーブルを傷つけない

火災や感電の原因となります。

電源ケーブルやプラグの取扱上の注意：

- ・加工しない、傷つけない。
- ・重いものを載せない。
- ・熱器具に近づけない、加熱しない。
- ・電源ケーブルをコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



傷つけない

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないでください。

- ・直射日光の当たる場所
- ・暖房器具の近くなどの高温になる場所
- ・急激な温度変化のある場所（結露するような場所）
- ・湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所（湿度80%以下の環境でご使用ください）
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所や、ジュースを敷いた場所（静電気障害の原因になります）
- ・腐食性ガスの発生する場所



静電気注意

本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分、ポート、部品などに素手で触れないでください。



取り扱いはいねいに

落としたり、ぶつかけたり、強いショックを与えないでください。



お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

誤動作の原因になります。



機器は、乾いた柔らかい布で拭く

汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。



ぬらすな



中性洗剤
使用



強く絞る

お手入れには次のものは使わないでください

・石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉せっけん
（化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。）



シンナー
類不可

ご注意

本書の中に含まれる情報は、当社(アライドテレシス株式会社)の所有するものであり、当社の同意なしに、全体または一部をコピーまたは転載しないでください。当社は、予告無く本書の全体または一部を修正・改訂することがあります。また、改良のため製品の仕様を予告無く変更することがあります。

Copyright © 2002 アライドテレシス株式会社

商標について

CentreCOMは、アライドテレシス株式会社の登録商標です。
Windows、Windows NTは、米国Microsoftの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
本マニュアルの中に掲載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

このマニュアルについて

このたびは、CentreCOM HS814TX V1(以下、HS814TX V1)をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

HS814TX V1は、HomePNA(1.1)インターフェースを12ポートと10BASE-T/100BASE-TXインターフェースを2ポート装備したHomePNA対応スイッチです。

内蔵されたソフトウェアによって、ターミナルポートから簡単な設定が可能です。

本書では、ご使用いただくうえでの注意事項や設置の方法、ソフトウェアの設定方法、付録で障害が発生したときの対処方法や製品仕様について説明しています。

本書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。また、お読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

マニュアルバージョン

2002年 5月 Rev.A 初版

このマニュアルについて

表記規則

本書の表記規則を以下に示します。

アイコン	意味
	ヒント 重要な情報や指示を示します。
	注意 人体やシステムに危害や損害がおよぶ恐れがあることを示します。
	警告 人体に重大な危害がおよぶ恐れがあることを示します。
	手順 操作手順を示します。
	参照 参照ページ・参照項目を示します。

マニュアルの構成

本書の構成は、以下のとおりです。

1 はじめに

本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働き、設置方法と機器の接続について説明しています。

2 ソフトウェアの設定

この章では、本製品に対する設定を行うためのターミナルソフトウェアの設定方法、メニューの操作、各機能と設定内容について説明しています。

3 付録

トラブルシューティングおよび製品仕様について説明しています。

4 保証とユーザーサポート

本製品の保証と、障害の際のユーザーサポート、調査依頼書の記入方法について説明しています。

目次

安全のために	ii
ご注意	iv
商標について	iv
電波障害自主規制について	iv
このマニュアルについて	v
表記規則	vi
マニュアルの構成	vii
1 はじめに	1-1
1 梱包内容	1-2
2 特長	1-3
3 各部の名称と働き	1-4
前面 / 背面	1-4
側面	1-6
4 設置	1-7
設置するときの注意	1-7
設置方法	1-8
5 接続	1-11
ネットワーク機器を接続する	1-11
カスケード接続	1-12
HomePNA 構成例	1-14
コンソールを接続する	1-15
電源ケーブルを接続する	1-16
6 マルチプル VLAN 構成	1-17
2 Local Management System	2-1
1 接続方法	2-2
VTTERM の設定手順	2-2
「ハイパーターミナル」の接続方法	2-2
IP アドレスの設定	2-4
Telnet の設定手順	2-5
CentreNET PC/TCP の設定手順 (MS-DOS、Windows 3.1)	2-7
HTTP (Web ブラウザーを使用)	2-9
2 Local Management System	2-10
3 メニューの設定	2-11
メインメニュー	2-11
スイッチ設定	2-15
システムリポート	2-22
ソフトウェアアップグレード	2-23
ネットワーク情報	2-24
クロストーク調整	2-25

3	付 録	3-1
1	トラブルシューティング	3-2
	トラブルと思ったら	3-2
2	仕 様	3-4
	コネクタ / ケーブル仕様	3-4
	本製品の仕様	3-6
4	保証とユーザーサポート	4-1
1	保証とユーザーサポート	4-2
	保証	4-2
	ユーザーサポート	4-2
2	調査依頼書のご記入にあたって	4-3
	使用しているハードウェアについて	4-3
	お問い合わせ内容について	4-3
	ネットワーク構成について	4-3
	調査依頼書 (CentreCOM HS814TX V1)	4-4

1

はじめに

本製品の梱包内容、特長、各部の名称と働き、設置方法と機器の接続について説明しています。

1 梱包内容

CentreCOM HS814X V1本体 1台

HS814TX V1



ゴム足 (貼り付けタイプ)
4個



電源ケーブル 1本

ユーザーマニュアル(本書) 1冊



製品保証書 1枚
お客様インフォメーション登録カード 1枚
シリアル番号シール 3枚

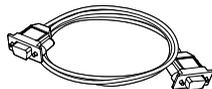
ブラケット取り付け用
皿ネジ 16本



19インチラックマウント用
鍋ネジ 4個

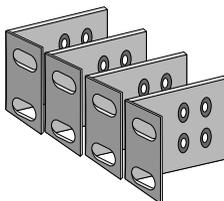


▶ ラックによっては、適合しない場合があります。
その場合は、ご使用のラックに付属
のネジをお使いください。



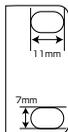
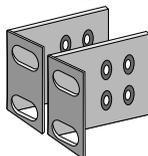
RS-232Cクロスケーブル(1.8m) 1本

壁掛け用ブラケット 4個



壁掛け用 (4個)
(ネジ穴が小さい)

19インチラックマウント用
ブラケット 2個



ラックマウント用 (2個)
(ネジ穴が大きい)

最初に梱包箱の中身を確認してください。

本製品を移送する場合は、工場出荷時と同じ梱包箱で再梱包されることが望めます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

1

はじめに

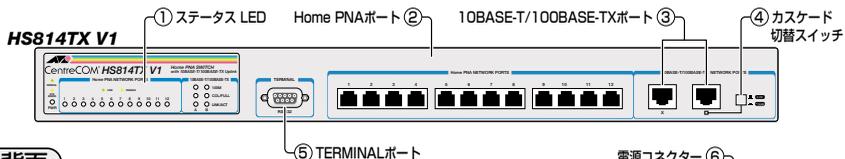
2 特 長

- 既存の電話回線を使用して、最大 1Mbps のデータ通信が可能
- 12 ポートの HomePNA ポートを装備
- アップリンクポートとして 10BASE-T/100BASE-TX ポートを 2 ポート装備し (うち 1 ポートはカスケード切替可能)、スイッチやルーターなど、他のネットワーク機器と接続可能
- 集合住宅向け用途として、各ポート間のセキュリティーを確保する機能 (マルチプル VLAN) が工場出荷時にあらかじめ設定済み (構成は変更不可)
- 電源を内蔵
- 19 インチラックマウント、壁掛けキット付属
- 10BASE-T/100BASE-TX ポートは、ポートごとにオートネゴシエーション、Full duplex/Half duplex の通信モード、10Mbps/100Mbps の通信速度が設定可能
- フローコントロール機能をサポート (バックプレッシャーが常に有効。Full Duplex 時、PAUSE パケットの送信を指定可能)
- 8K 個 (最大) の MAC アドレスを登録可能
- 信頼性の高いストア & フォワードのスイッチング方式
- RS-232 や Telnet で接続しているコンソールから内蔵ソフトウェアへのアクセスが可能
- SNMP エージェント機能による監視が可能
- TFTP によるソフトウェアのダウンロードが可能

3 各部の名称と働き

前面 / 背面

前面



背面

① ステータス LED

- ・ POWER:

[緑] 電源が供給されていると、緑色に点灯します。

[黄] DRAM テストに失敗すると、黄色に点灯します。

NICコントローラのイニシャルテストに失敗すると、ゆっくり点滅します。

スイッチコントローラのイニシャルテストに失敗すると、速く点滅します。

電源ケーブルが正しく接続されていないか、指定した電源電圧が使用されていない場合、消灯します。

[HomePNA NETWORK PORTS/STATUS 部]

- ・ LINK:

[緑] ポートと接続先の機器がリンクしたときに点灯します。

リンクが確立されていない場合、消灯します。

[黄] ソフトウェアにより無効と設定されているときに点灯します。

[10BASE-T/100BASE-TX 部]

- ・ 100 M (緑): 100Mbps 時に点灯します。

10Mbps 時に消灯します。

- ・ COL/FULL (緑): Full Duplex 時に点灯します。

Half Duplex 動作時に消灯します。

Half Duplex 動作時に、データの衝突を検知(コリジョンが発生)した場合に点滅します。

- ・ LINK/ACT (緑): ポートと接続先の機器がリンクしたときに点灯します。

また、ポートがパケットを送受信しているときに点滅します。
リンクが確立されていない場合、消灯します。

② HomePNA ポート

テレホンコードを接続するモジュージャック(RJ-11)です。

12個のポートは、それぞれVLAN機能を持っているため、送受信されるデータの内容が他のポートへ流れることはありません。

 1-17 ページ「マルチプルVLAN構成」

③ 10BASE-T/100BASE-TX ポート

10BASE-Tではカテゴリ3以上のUTPケーブルを、100BASE-TXではカテゴリ5以上のUTPケーブルを接続します。

スイッチやルーターなど、他のネットワーク機器と接続することで、アップリンクポートとして使用できます。またBポートは、カスケード切替スイッチによりMDIとMDI-Xを切り替えることが可能です。

④ カスケード切替スイッチ

カスケードポート(10BASE-T/100BASE-TXポートのBポート)を、カスケード接続用ポートとして使用するか、通常の10BASE-T/100BASE-TXポートとして使用するかを設定することができます。

X PC  (スイッチが飛び出している状態)

通常の10BASE-T/100BASE-TXポート(MDI-X)として使用します。

= HUB  (スイッチが押し込まれた状態)

カスケード接続をするときのカスケードポート(MDI)として使用します。

⑤ (RS-232)TERMINAL ポート

本体とコンソールとを接続してソフトウェアを使用するためのコネクタです。コネクタは9ピンオスタイプです。

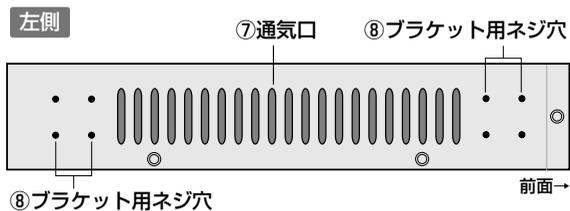
ケーブルはRS-232クロスケーブルを使用します。

⑥ 電源コネクタ

電源ケーブルを接続するためのコネクタです。

3 各部の名称と働き

側面



1

はじめに

⑦ 通気口

熱を逃がして空気の循環をよくするための通気口です。

! 通気口をふさいだり、周囲に物を置いたりしないでください。

⑧ ブラケット用ネジ穴

同梱の19インチラック用または壁掛け用ブラケットを取り付けるためのネジ穴です。

参照 1-8 ページ「壁への取り付け」

1-10 ページ「19インチラックへの取り付け」

4 設 置

設置するときの注意

本製品の設置や保守を始める前に、必ずiiページの「安全のために」をよくお読みください。

設置場所については、次の点にご注意ください。

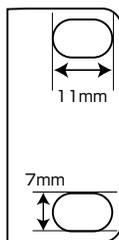
- 電源ケーブルや各メディアのケーブルに無理な力が加わるような配置はさけてください。
- テレビ、ラジオ、無線機などのそばに設置しないでください。
- 傾いた場所や、不安定な場所に設置しないでください。
- 本体の上に物を置かないでください。
- 直射日光のあたる場所、多湿な場所、ほこりの多い場所に設置しないでください。
- 19インチラックまたは壁に設置する際は、正しいブラケットを使用してください。

● 本製品を設置するためのブラケット

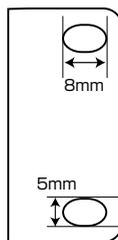
本製品には、19インチラックへ取り付けするためのブラケット(2個)と、壁掛け用のブラケット(4個)の2種類が同梱されています。

この2種類のブラケットは、なべネジ用のネジ穴のサイズが異なります。

次の図を参考に、正しいブラケットを使用して取り付けてください。



ラックマウント用 (2個)
(ネジ穴が大きい)



壁掛け用 (4個)
(ネジ穴が小さい)

設置方法

設置方法には、机上に設置する方法、EIA規格の標準ラックに取り付ける方法および壁に取り付ける方法があります。

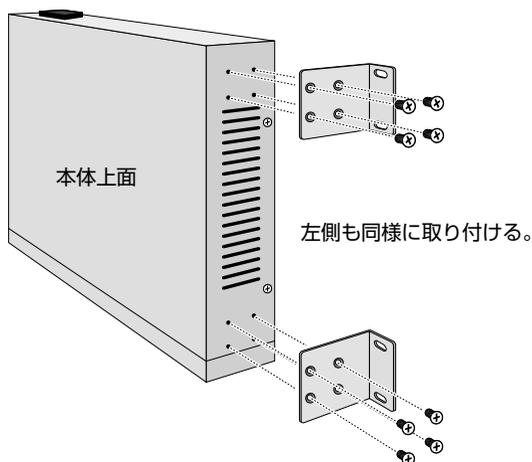
▶ 机上に設置

本製品を机上に設置する場合、付属のゴム足(貼り付けタイプ)を、本体裏面のゴム足取り付け位置(4カ所)に取り付けて、使用してください。

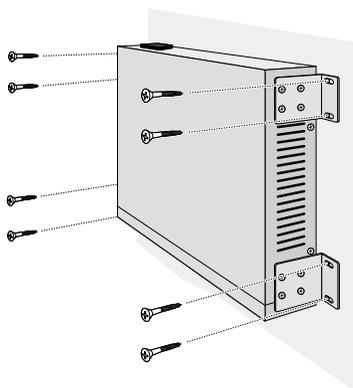
▶ 壁への取り付け

同梱の壁掛け用ブラケットを使用して、本製品を壁へ取り付けることが可能です。

1. 次の点を考慮して、設置場所と設置方向を決めます。
 - ・ ケーブルの接続が可能であること
 - ・ LEDの表示が監視可能であること
2. 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。
3. ゴム足は、取り付けられた状態でも壁への取り付けが可能です。
4. 皿ネジを使用して、ブラケットを本体の両側面に取り付けます。
1個のブラケットにつき4本(合計16本)の皿ネジを使用します。



5. 取り付けたい壁面に、ネジでしっかりと固定します。

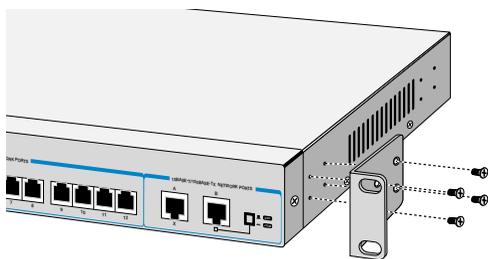


- ▶ 本製品には、壁に取り付けるためのネジは、付属していません。各自ご用意ください。また、本製品(3.0kg)にケーブルを加味した重量を確実に支えるのに十分な強度のネジを使用し、1個のブラケットにつき2本(合計8本)のネジでしっかりと固定してください。
- ▶ 高所に取り付ける際には、特に注意して、確実に壁に固定してください。固定が不十分な場合、落下による怪我や、本製品が破損するおそれがあります。
- ▶ 取り付け面の状態、取り付けネジによっては、十分な取り付け強度を得られないことがあります。機器およびケーブルの重みによって本製品が落下しないよう、確実に、取り付け・設置を行ってください。怪我や本製品の破損の原因になることがあります。
- ▶ 振動・衝撃の多い場所や、不安定な場所には設置しないでください。落下による怪我や、本製品の故障の原因になることがあります。
- ▶ 取り付け面によっては、本製品の設置の際に、被着面の塗装などに傷が付く場合があります。
- ▶ 石膏ボード、ベニヤなど、中空になっている壁に取り付ける場合は、プラスチックアンカー等を併用してください。

▶ 19 インチラックへの取り付け

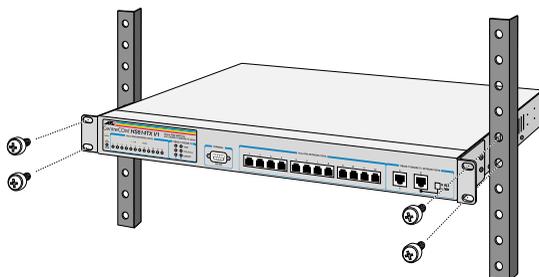
同梱の 19 インチ・ラックマウント用ブラケットを使用して、EIA 規格の 19 インチラックに取り付けることができます。

1. 電源ケーブルや各メディアのケーブルをはずします。
2. ゴム足が取り付けられている場合は、ゴム足を取り外します。
3. 皿ネジを使用して、ブラケットを本体の両側面に取り付けます。
1 個のブラケットにつき 4 本 (合計 8 本) の皿ネジを使用します。



左側も同様に付ける

4. 19 インチラックの希望する位置に本体を合わせて、本製品に付属のなべネジでしっかりと固定します。
1 個のブラケットにつき 2 本 (合計 4 本) のなべネジを使用します。



▶ ブラケットおよびブラケット取り付け用ネジは必ず同梱のものを使用し、ラックへの取り付けは、本製品に付属またはラックに付属しているネジを使用し、確実に固定してください。

固定が不十分な場合、落下などにより重大な事故が発生する恐れがあります。

5 接 続

ネットワーク機器を接続する

ケーブル

HomePNA ポートへの接続には、市販されているテレホンコードを使用してください。10BASE-T/100BASE-TXポートへの接続には、10BASE-Tの場合はカテゴリ3以上のUTPケーブル(ストレートタイプ)を、100BASE-TXの場合はカテゴリ5以上のUTPケーブル(ストレートタイプ)を使用してください。

※弊社販売のシールド付カテゴリ5ケーブルも使用できます。

すべてのケーブルが機器間を接続するために適切な長さであることを確認します。本製品のAポートおよびBポートとコンピューター等を接続するケーブルの長さ、また本製品のAポートおよびBポートとリピーターやスイッチを接続するケーブルの長さはすべて100m以内にしてください。

起動と停止

電源ケーブルのソケット側を本体背面の電源コネクタに接続し、プラグ側を電源コンセントに差し込むと起動します。

電源ケーブルのプラグ側を電源コンセントから抜くと停止します。

! 本製品には電源スイッチがありません。電源ケーブルを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。

! 電源ケーブルのプラグ側を電源コンセントに差し込んだまま、ソケット側を抜かないでください。感電事故を引き起こすおそれがあります。

接続手順

1. HomePNA ポートに、テレホンコードを接続します。
2. テレホンコードのもう一端を、MDF(Main Distributing Frame)の二次局側に接続します。
3. 本体前面の10BASE-T/100BASE-TXポートにUTPケーブルを接続します。
4. ネットワークに接続するコンピューター等に、10BASE-T/100BASE-TXネットワークインターフェースカードが正しく取り付けられていることを確認して、UTPケーブルのもう一方をコンピューター等のネットワークインターフェースカードに接続します。
5. 電源ケーブルのソケット側を本体背面の電源コネクタに接続し、プラグ側を電源コンセントに差し込みます。

カスケード接続

本製品では、カスケードポート(Bポート)を使用することで、ケーブルをクロスタイプに変更することなく、簡単にカスケード接続を行うことができます。

また、スイッチ同士のカスケード接続はカスケードできる数に理論上の制限がありません。そのため、用途に合わせてネットワークを拡張することができます。

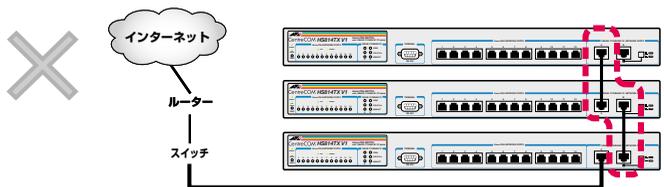
! カスケードの段数はネットワーク上で動作しているアプリケーションのタイムアウトによって制限される場合があります。

本製品のAポートおよびBポートとリピーターやスイッチを接続するUTPケーブルの長さは100m以内です。

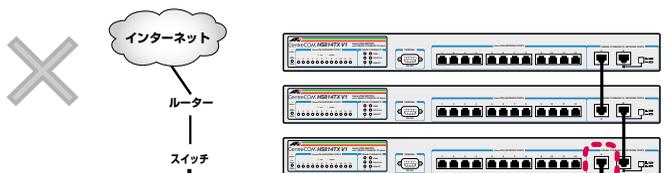
本製品同士をカスケード接続する際は、1台目の10BASE-T/100BASE-TXポート(Aポート)と2台目のカスケードポート(Bポート)をUTPケーブル(ストレートタイプ)を接続します。

! 本製品から他のスイッチングHUB等へ接続する際は、必ずカスケードポート(Bポート)から接続してください。

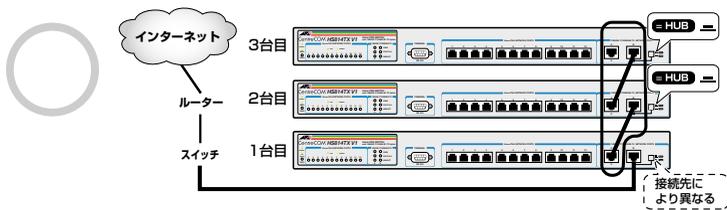
カスケード接続方法



※ Aポート同士、またはBポート同士をカスケードしないでください

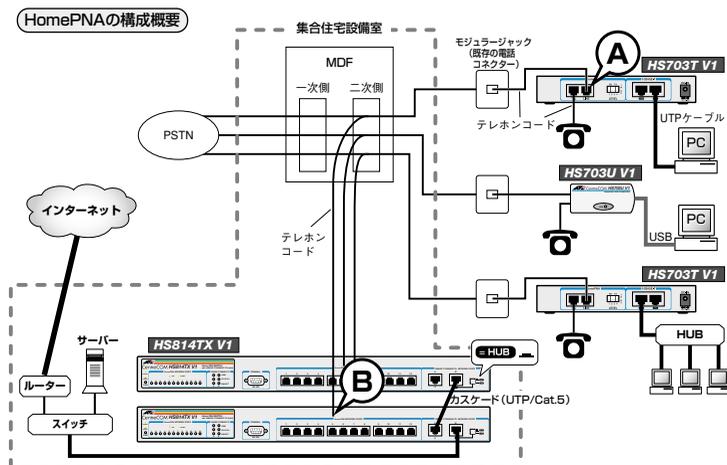


※ Aポートから外部への接続はしないでください



HomePNA 構成例

※A-B間は最大150m



マンションやホテルのような集合住宅の場合、集合型のHomePNAスイッチ(本製品やCentreCOM HS726TX V1やCentreCOM HS826TX V1など)をMDF(Main Distributing Frame)内の二次局側と接続することで、各戸へインターネット接続を分配することが可能になります。

一方、各戸では、HomePNAコンバーター(CentreCOM HS703T V1やCentreCOM HS703U V1など)を、壁にある既存の電話コネクターとお使いのコンピューターに接続するだけで、インターネットへの接続が可能になります。

HomePNAでは、最長データ伝送距離が150mと定められています。この図の場合、HomePNAスイッチのポート(B)から、各戸に設置されているHomePNAコンバーターのLINEポート(A)までの距離が、最長150mとなります。

また、同一回線につなげられる電話の数も、最大25台まで決められています。これら伝送可能距離および接続可能台数は、経由するHomePNAコンバーターの分岐数などによって異なるため、注意が必要です。

コンソールを接続する

コンソールを使用して内蔵ソフトウェアにアクセスする場合は、RS-232クロスケーブルで、本体前面ターミナルポートとコンソール側のRS-232コネクタを接続します。

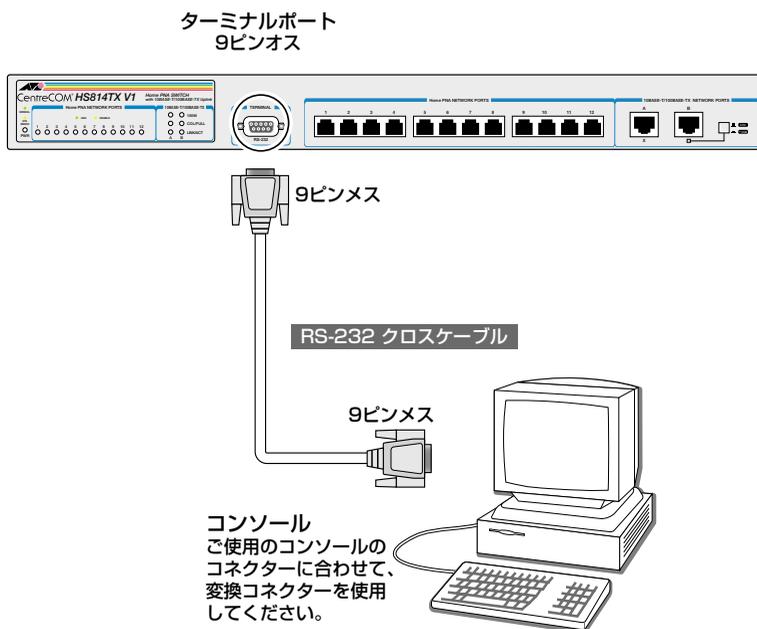
i ターミナルエミュレーションソフトの設定については、次章の「ソフトウェアの設定」で説明します。

コンソール

コンソールは、VT-100互換のターミナルエミュレーターを実行するRS-232コネクタ付きのコンピューター等、またはRS-232コネクタ付き非同期ターミナルのご使用をお勧めします。

ケーブル

ケーブルは同梱のRS-232クロスケーブル(9ピンメス—9ピンメス)を使用します。接続する機器に合わせて、別途変換コネクタを用意してください。

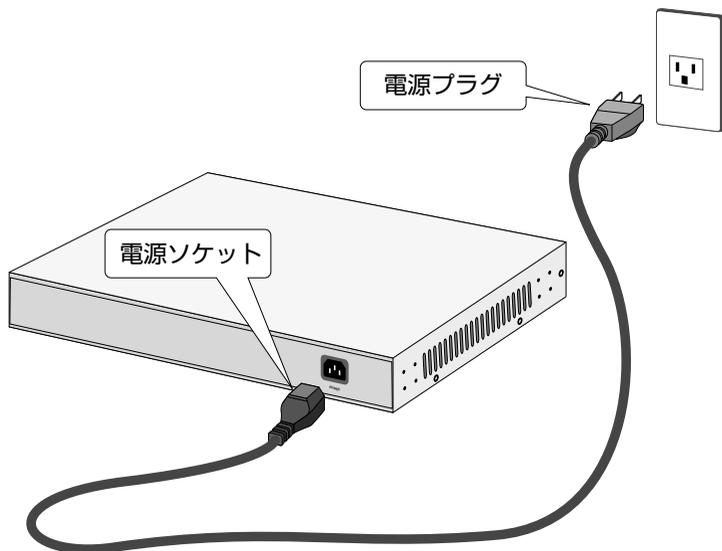


電源ケーブルを接続する

本製品は電源ケーブルを接続すると、自動的に電源が入ります。

▶ 本体の起動

- 1 電源ケーブルの電源ソケットを本体背面の電源コネクタに接続します。
- 2 電源ケーブルの電源プラグを電源コンセントに接続します。
- 3 電源が入ると、POWER LED が緑に点灯します。



電源を切る場合は、電源プラグを電源コンセントから抜きます。
電源プラグに電源コンセントを接続したまま、電源ソケットを抜かないでください。

⚠ 本製品をAC 100～120Vで使用する場合は、同梱の電源ケーブルを使用してください。

また、指定された電源電圧以外で使用しないでください。

不適切な電源ケーブルや電源コンセントを使用すると、発熱による発火や感電の恐れがあります。

6 マルチプル VLAN 構成

本製品のマルチプル VLAN 構成は、次の通りです。
なお、本構成は変更することができません。

VLAN 1 Port 1(HomePNA), Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 2 Port 2(HomePNA), Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 3 Port 3(HomePNA), Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 4 Port 4(HomePNA), Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 5 Port 5(HomePNA), Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 6 Port 6(HomePNA), Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 7 Port 7(HomePNA), Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 8 Port 8(HomePNA), Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 9 Port 9(HomePNA), Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 10 Port 10(HomePNA), Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 11 Port 11(HomePNA), Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 12 Port 12(HomePNA), Port B (10BASE-T/100BASE-TX)
VLAN 13 Port A(10BASE-T/100BASE-TX), Port B (10BASE-T/100BASE-TX)

1

はじめに

2

Local Management System

この章では、本製品に対する設定を行うためのターミナルソフトウェア(Local Management System)の接続方法、設定方法および設定内容について説明しています。

1 接続方法

パソコンからLocal Management Systemへは、次の4つのいずれかの方法で接続します。(コンソール用RS-232ストレートケーブルは、COM1に接続することとします。)

- 弊社 VTTERM
- Windows 95/98/2000/XP、Windows NT 標準プログラム「ハイパーターミナル」
- Telnet
- HTTP(Web ブラウザを使用)

VTTERM の設定手順

弊社VTTERM(VT-Kit)をご使用の場合、DOSプロンプトから次のコマンドを入力して、**Enter**キーを押します。

```
C: ¥>VTTERM
```

VTTERM が起動し、初期画面が表示されます。

VTTERMのデフォルトの設定は、本製品の通信条件を満たしていますので、特に設定をする必要はありません。

Enterキーを数回押すと、Local Management Systemのメインメニューが表示されます。

「ハイパーターミナル」の接続方法

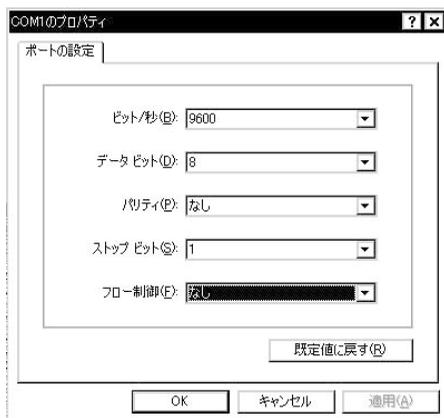
Windows 95/98/2000/XP、Windows NTが動作するPCやワークステーションでは、ターミナルエミュレーション・ソフトウェアとして標準装備の「ハイパーターミナル」(Hypertrm.exe)を使用することができます。

1 Windows 95の場合 - [スタート] メニューの中から [プログラム] -> [アクセサリ] -> [ハイパーターミナル] を選択して、ハイパーターミナルフォルダ内の「Hypertrm.exe」をダブルクリックして起動します。

Windows 98/2000/XPの場合 - [スタート] メニューの中から [プログラム] -> [アクセサリ] -> [通信] -> [ハイパーターミナル] を選択して、起動します。

Windows NTの場合 - [スタート] メニューの中から [プログラム] -> [アクセサリ] -> [ハイパーターミナル] -> [ハイパーターミナル] を選択して、起動します。

- 2 「接続の設定」ダイアログボックスで、適切な名前を入力し、アイコンを選んで、[OK] ボタンをクリックします。
モデムのインストールをするかどうかを問うダイアログボックスが表示された場合は、[いいえ] をクリックします。
- 3 **Windows 95 の場合**- 「電話番号」ダイアログボックスが表示されます。
[接続方法] の欄で、[COM1へダイレクト] を選択して、[OK] ボタンをクリックします。
Windows 98/2000/XP の場合- 「接続の設定」ダイアログボックスが表示されます。
[接続方法] の欄で、[COM1へダイレクト] を選択して、[OK] ボタンをクリックします。
Windows NT の場合- 「接続の設定」ダイアログボックスが表示されます。
[ポートの設定] タブの [接続方法] の欄で、[COM1] を選択して、[OK] ボタンをクリックします。
- 4 「COM1のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。下図のように設定して、[OK] ボタンをクリックします。



1 接続方法

- 5 「XXXX-ハイパーターミナル」のような、先ほど設定した名称のウィンドウが表示されます。
- [ファイル] メニューの中から [プロパティ] を選択すると、「XXXXのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- [設定] タブを下図のように設定して、[OK] ボタンをクリックします。



2

ソフトウェアの設定

IPアドレスの設定

TelnetでHomePNAスイッチの設定を開始する前に、まず、コンソールポートを経由して本製品のIPアドレスを設定しておく必要があります(「メインメニュー」→「Switch Configuration」→「System IP Configuration」→「Set IP Address」)。次に、Telnet サーバーの使用を有効にします(「メインメニュー」→「Switch Configuration」→「User Interface Configuration」→「Enable Telnet Server」)。

スイッチのIPアドレス設定が完了すれば、Telnetによるスイッチ管理が可能になります。スイッチのIPアドレスが172.16.5.86と設定されている場合、次のようなDOSコマンドでLocal Management Systemへ接続することができます。

```
telnet 172.16.5.86
```

本製品は、4セッションまでのTelnetをサポートしているため、同時に4つのTelnet接続が可能です。

スイッチに接続すると、コンソールポートから接続した場合と同じメニューが表示され、同様に設定を行えます。

Telnetの設定手順

Windows 95/98/2000/XP、Windows NT は、TCP/IP プロトコルを実装していますので、Windows 95/98/2000/XP、Windows NT が動作する PC やワークステーションでは、標準 Telnet アプリケーション「TELNET」（Telnet.exe）を使用することができます。

1 ネットワークに合わせて TCP/IP プロトコルの環境設定を行います。

Windows 95 の場合— [スタート] メニューから [設定] -> [コントロールパネル] で「コントロールパネル」を開きます。
「ネットワーク」をダブルクリックし、[ネットワークの設定] タブのリストから [TCP/IP] を選択して [プロパティ] ボタンをクリックして行います。

Windows 98 の場合— [スタート] メニューから [設定] -> [コントロールパネル] で「コントロールパネル」を開きます。
「ネットワーク」をダブルクリックし、[ネットワークの設定] タブのリストから [TCP/IP -> (ご使用のアダプター)] を選択して [プロパティ] ボタンをクリックして行います。

Windows 2000/XP の場合— [スタート] メニューから [設定] -> [コントロールパネル] で「コントロールパネル」を開いて「ネットワークとダイヤルアップ接続」をダブルクリックします。
「ローカルエリア接続」を右クリックして [プロパティ] を選択すると「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。リストから [インターネットプロトコル (TCP/IP)] を選択して [プロパティ] ボタンをクリックして行います。

Windows NT の場合— [スタート] メニューから [設定] -> [コントロールパネル] で「コントロールパネル」を開いて、「ネットワーク」をダブルクリックし、[プロトコル] タブのリストから [TCP/IP プロトコル] を選択して [プロパティ] ボタンをクリックして行います。

2 Windows 95/98/2000/XP の場合—「エクスプローラ」から、[Windows (WINDOWS)] フォルダ内の「Telnet.exe (TELNET.EXE)」をダブルクリックして、「Telnet.exe (TELNET.EXE)」を起動します。

Windows NT の場合—「Windows NT のエクスプローラ」から、[WINNT] -> [system32] フォルダ内の「telnet」をダブルクリックして、「telnet」を起動します。

1 接続方法

- 3 [ターミナル] メニューから [設定] を選択すると、[ターミナルの設定] (基本設定の変更) ダイアログボックスが表示されます。
[エミュレーション] 欄で [VT-100/ANSI] ラジオボタンをクリックします。



- 4 [接続] メニューから [リモートシステム] をクリックすると、「接続」ダイアログボックスが表示されます。
[ホスト名] 欄に、あらかじめ設定しておいたIPアドレスを入力して、[接続] ボタンをクリックします。

 2-4 ページ 「IPアドレスの設定」



- 5 以上で、設定が終わりました。セッションが確立すると「TELNET session now in ESTABLISHED state」のメッセージ後にログインプロンプトが表示されます。

CentreNET PC/TCP の設定手順(MS-DOS、Windows3.1)

通常のMS-DOSパソコンおよびWindows 3.1環境でTelnetを使用する場合は、TCP/IP 通信ソフトが必要です。

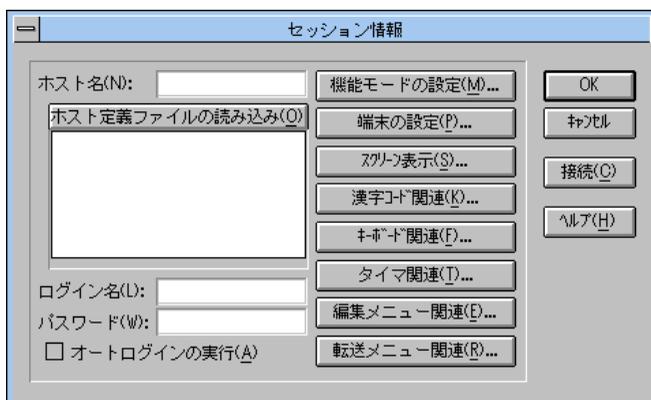
TCP/IP通信ソフトがインストールされていない場合は、各マニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

ここでは、弊社「CentreNET PC/TCP」をご使用の場合の接続方法を説明します。(あらかじめ、「CentreNET PC/TCP」がインストールされているものとします。)

Centre NET PC/TCP には、Windows 3.1 環境で動作する「Wvtm」とMS-DOS 環境で動作する「vtm」の2つのTelnet コマンドがあります。

Wvtm

- 1 [プログラムマネージャ] -> [PCTCPWIN] 内の [Wvtm] をダブルクリックして、起動します。
- 2 「Wvtm」ウィンドウで、[セッション] メニューから [新規作成] を選択すると、次のような「セッション情報」ダイアログボックスが表示されます。
[ホスト名] 欄に、あらかじめ設定しておいたIP アドレスを入力して、[OK] ボタンをクリックします。



- 3 以上で、設定が終わりました。

1 接続方法

vtn

- 1 MS-DOS プロンプトが起動していることを確認します。
- 2 次のコマンドを入力して、**Enter** キーを押します。

```
C:\>VTN
```

- 3 次のようなホスト名を入力するためのプロンプトが表示されます。あらかじめ設定しておいた IP アドレスを入力して、[OK] ボタンをクリックします。

 2-4 ページ 「IP アドレスの設定」

```
Host Name:
```

- 4 以上で、設定が終わりました。セッションが確立すると「TELNET session now in ESTABLISHED state」のメッセージ後にログインプロンプトが表示されます。

2

ソフトウェアの設定

HTTP(Web ブラウザーを使用)

本製品は、LAN経由で、Webブラウザを使用した設定が可能です。ユーザーにとって使いやすいばかりでなく、管理者にとって管理コストがかからず、セキュリティ面でも考慮されています。

Webブラウザでスイッチの設定を開始する前に、まず、コンソールポートを経由して本製品のIPアドレスを設定しておく必要があります(「メインメニュー」→「Switch Configuration」→「System IP Configuration」→「Set IP Address」)。次に、Web サーバーの使用を有効にします(「メインメニュー」→「Switch Configuration」→「User Interface Configuration」→「Enable Web Server」)。

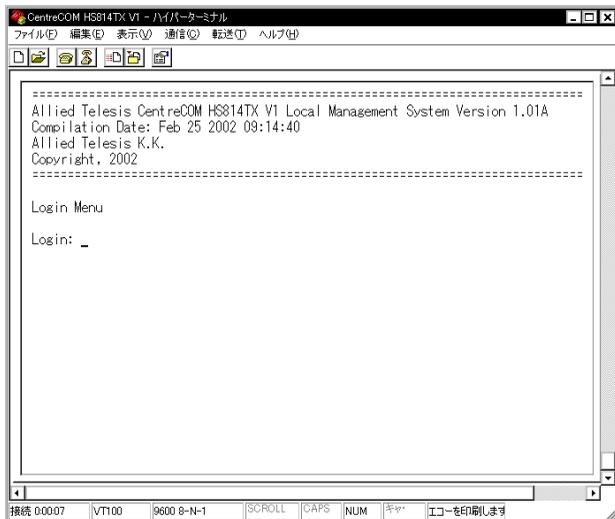
スイッチのIPアドレス設定が完了すれば、すべてのWebブラウザから設定を行うことが可能です。スイッチのIPアドレスが172.16.5.86と設定されている場合、Webブラウザのアドレスに、次のように入力することで、Local Management Systemへ接続することができます。

`http://172.16.5.86`

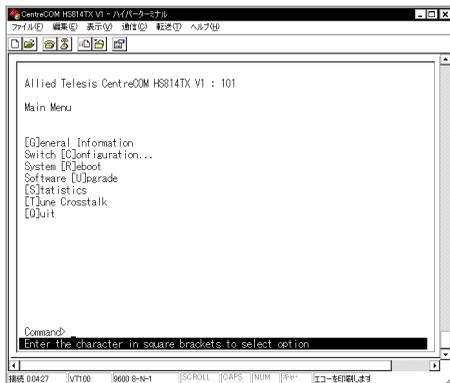
IPアドレスを入力すると、コンソールポートから管理する場合と同様、ユーザー名とパスワードが聞かれます。設定できる内容は、コンソールポートまたはTelnet接続した場合と同様です。ただし、各設定終了後、必ず「確定」ボタンをクリックしてください。

2 Local Management System

- 1 コンソールポートおよびTelnetからスイッチに接続後、**Enter**キーを数回押すと、Local Management Systemが起動し、ログイン画面が表示されます。ユーザー名とパスワードを入力し、スイッチの各設定を開始します。工場出荷時にあらかじめ設定されているユーザー名およびパスワードは、どちらも「manager」です。



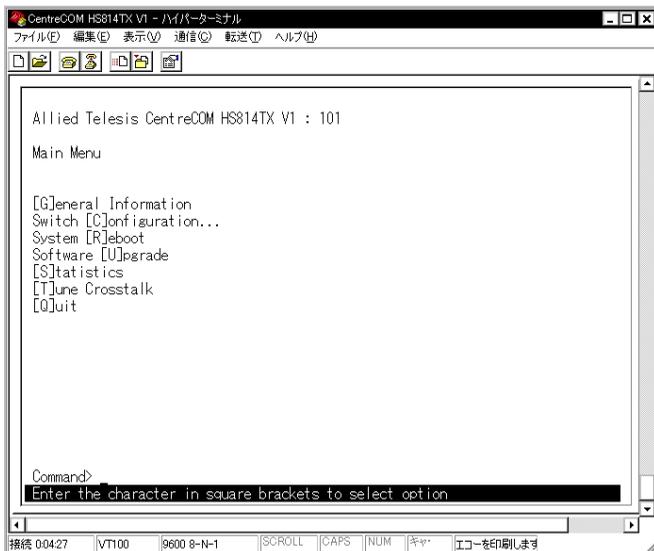
- 2 ログイン後、メインメニューが表示されます。



3 メニューの設定

メインメニュー

Local Management System にログインすると、メインメニューが表示されます。各項目の機能と設定の方法をメインメニューの上から順に説明していきます。



2

ソフトウェアの設定

3 メニューの設定

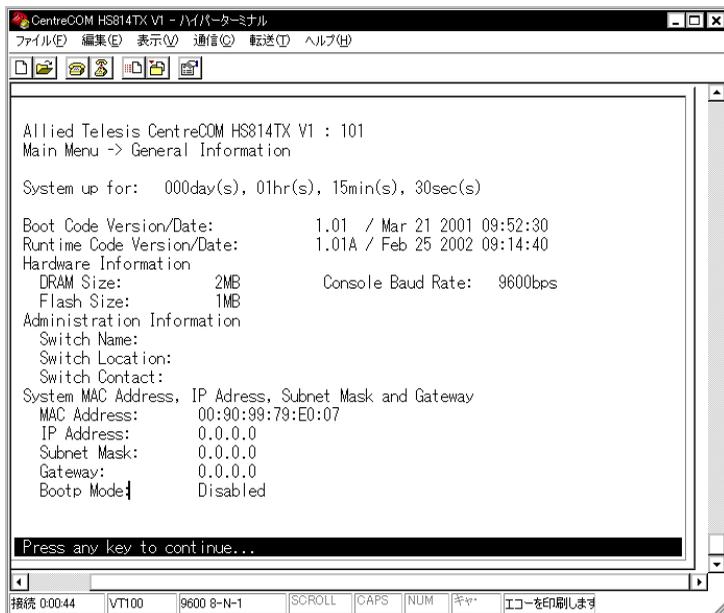
一般情報

General Information

メインメニューで「G」と入力すると、一般情報画面が表示されます。

一般情報画面には、本製品の全情報が表示されます。

任意のキーを押すと、メインメニューに戻ります。



2

ソフトウェアの設定

スイッチ設定

Switch Configuration

メインメニューで「C」と入力すると、スイッチ設定メニューが表示されます。スイッチ設定メニューでは、次の各項目の設定または変更を行えます。

- System Administration Configuration**
本製品のシステム名、ロケーションおよびコンタクト情報
- System IP Configuration**
本製品のIPアドレスやサブネットマスクなど
- SNMP Configuration**
SNMP 設定
- Port Configuration**
各 HomePNA ポートおよび Ethernet ポートの設定

- User Interface Configuration**
 - ・コンソールのUI設定
 - ・TelnetのUI設定
 - ・Telnetサーバー、SNMPエージェント、Webサーバーの有効/無効
 - ・管理者名および管理者パスワード

指定したパラメータは、自動的に(設定時に)NVDB(Non-Volatile Data Base)に保存されます。したがって、スイッチの電源のON/OFF時に、設定が自動的に保存または読み込まれます。「保存」コマンドなどを使用する必要はありません。

システムリブート

System Reboot

- Schedule Reboot Countdown**
リブートまでの秒数を設定します。
- Cancel Reboot Process**
リブート処理を中止します。
- Set Reboot Option**
リブートオプションを設定します。
- Start Reboot Process**
リブート処理を開始します。

ソフトウェアアップグレード

Software Upgrade

- Set Remote Server IP Address**
ダウンロードするソフトウェアがあるリモートサーバーのIPアドレスを指定します。
- Set Remote File Name**
ダウンロードするファイル名を指定します。
- Download Image File and Reboot**
イメージファイルをダウンロードし、システムをリブートします。
- Set Retry Count**
リトライ回数を設定します。

ネットワーク情報

Statistics

各ポートの送受信パケット数、コリジョンパケット数、およびエラーパケット数を表示します。

3 メニューの設定

CrossTalk 設定

Tune CrossTalk

各ポートのクロストーク調整を設定します。

- Select Port**
設定するポートを選択します。
- Next Port**
次のポートを表示します。
- Previous Port**
前のポートを表示します。
- Select Receive Noise Level**
受信ノイズレベルを選択します。
- Select Transport Level**
転送レベルを選択します。
- Specify Receive Noise Value**
受信ノイズ値を指定します。
- Specify Driving Value of Transmission**
転送送信値を指定します。
- Enable Auto-tune Crosstalk**
クロストークの自動調整を有効にします。

終了

Quit

Local Management Systemからログオフします。

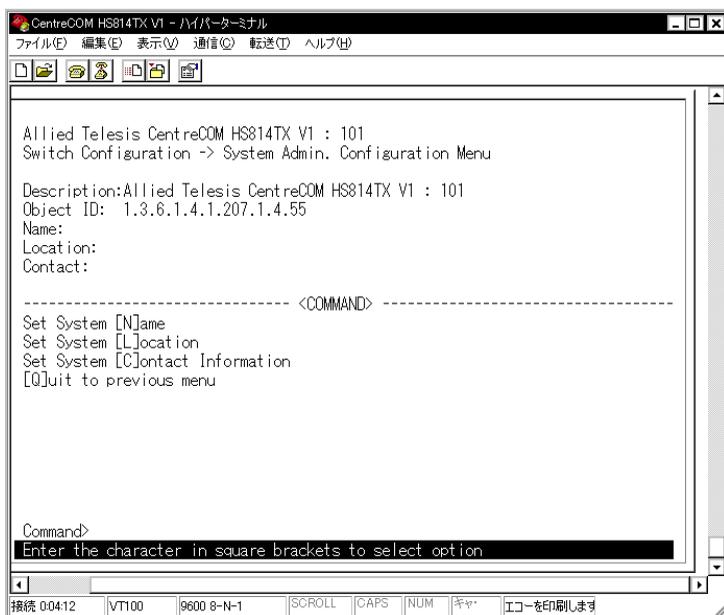
スイッチ設定

Switch Configuration

メインメニューで「C」と入力すると、スイッチ設定メニューが表示されます。スイッチ設定メニューでは、次の各項目の設定または変更を行えます。

System Administration Configuration

このメニューでは、システム管理情報を設定することができます。システム管理情報についての詳細は、次の通りです。メニュー下部のコマンドラインにコマンド文字を入力することで、各項目の設定を行えます。



Set System Name

スイッチ名を設定します。
デフォルト：なし
範囲：50文字以内(半角)

System Location

スイッチのロケーションを設定します。
デフォルト：なし
範囲：50文字以内(半角)

System Contact Information

担当者名を設定します。
デフォルト：なし
範囲：50文字以内(半角)

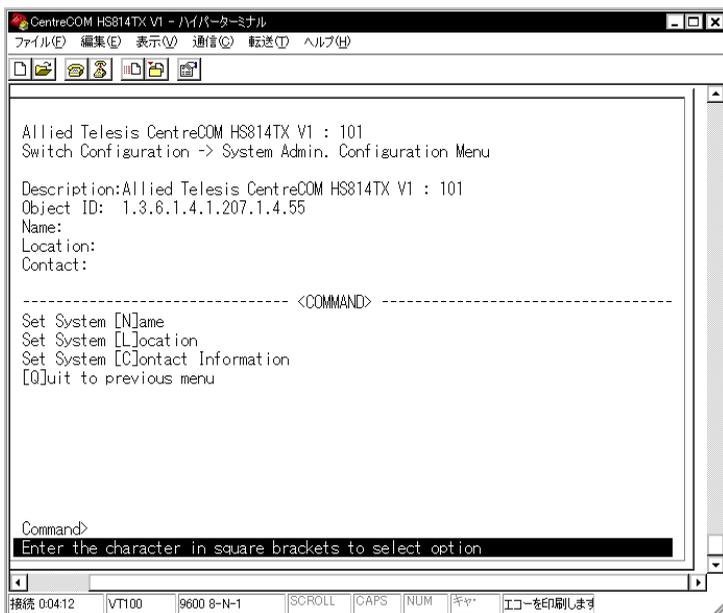
3 メニューの設定

Quit to previous menu

前のメニューに戻ります。

System IP Configuration

このメニューでは、IP情報を設定することができます。システムIP設定についての詳細は、次の通りです。メニュー下部のコマンドラインにコマンド文字を入力することで、各項目の設定を行えます。



Set IP Address

スイッチのIPアドレスを設定します。

デフォルト値：0.0.0.0

範囲：「.」で区切られた、4つの10進数で指定

Set Subnet Mask

スイッチのサブネットマスクアドレスを設定します。

デフォルト値：0.0.0.0

範囲：「.」で区切られた、4つの10進数で指定

Set Default Gateway

スイッチのゲートウェイアドレスを設定します。

デフォルト値：0.0.0.0

範囲：「.」で区切られた、4つの10進数で指定

Enable/Disable BOOTP Mode

BOOTP モードを有効または無効にします。

デフォルト: Disable

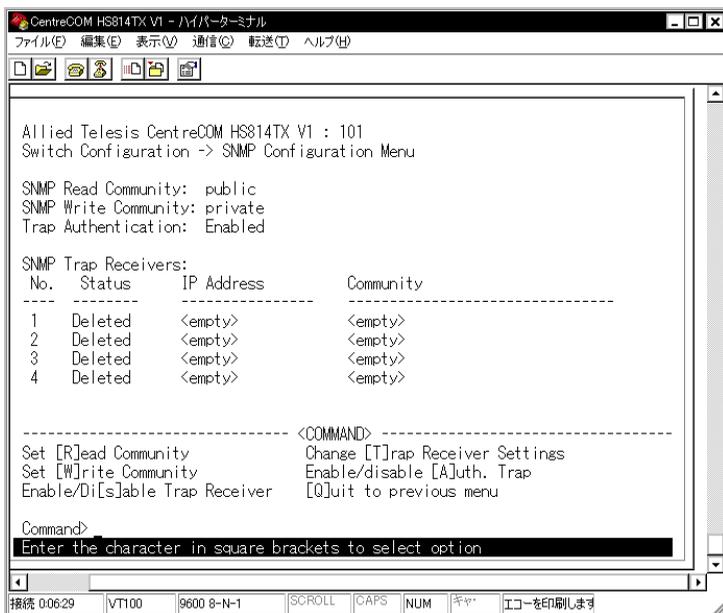
範囲: Enable、Disable

Quit to previous menu

前のメニューに戻ります。

SNMP Configuration

このメニューでは、SNMP情報を設定することができます。SNMP設定についての詳細は、次の通りです。メニュー下部のコマンドラインにコマンド文字を入力することで、各項目の設定を行えます。



Set Read Community

SNMPの読み取りオペレーションで使用するコミュニティ文字列を設定します。

デフォルト: public

範囲: 20文字以内(半角)

3 メニューの設定

Write Community

SNMP の書き込みオペレーションで使用するコミュニティ文字列を設定します。

デフォルト : private

範囲 : 20 文字以内(半角)

Enable/Disable Trap Receiver Setting

IP アドレスや書き込みコミュニティ名など、トラップレシーバー設定を変更します。

Enable/Disable Auth. Trap

SNMP 認証に失敗した場合、トラップを送信するかどうかを決めます。

デフォルト : Enable

範囲 : Enable、Disable

Quit to previous menu

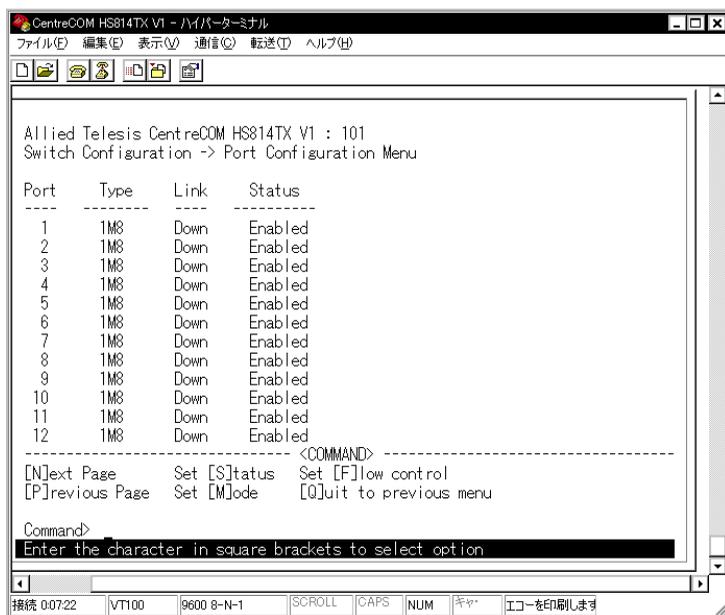
前のメニューへ戻ります。

2

ソフトウェアの設定

Port Configuration

このメニューでは、ポート設定を変更することができます。ポート設定の詳細は、次の通りです。メニュー下部のコマンドラインにコマンド文字を入力することで、各項目の設定を行えます。



Next Page

ポート設定の次ページを表示します。

Previous Page

ポート設定の前のページを表示します。

Set Status

ポートを有効または無効にします。「Enable(有効)」を選択すると、ポートは正常に動作します。「Disable(無効)」を選択すると、ポートがテレホンコードまたはUTPで接続されている場合でも、データの送受信を行いません。

デフォルト: Enable

範囲: Enable、Disable

設定可能なポート: 1～14(13はポートA、14はポートBです)

Set Mode

ポートのオペレーションモードを選択します。

デフォルト: オートネゴシエーション

範囲: Auto-Negotiation

10Mbps/Half-Duplex、100Mbps/Half-Duplex、

10Mbps/Full-Duplex、100Mbps/Full-Duplex

設定可能なポート: 13、14(13はポートA、14はポートBです)

通信モードは、必ず接続先の機器を確認して、次の表の○印の組み合わせになるように設定してください。

相手ポート HS814TX V1 自ポート		10M		100M		Auto
		Half	Full	Half	Full	
10M	Half	○	—	—	—	○
	Full	—	○	—	—	—
100M	Half	—	—	○	—	○
	Full	—	—	—	○	—
Auto		○	—	○	—	○

Set Flow Control

Full Duplex通信時に、IEEE 802.3x PAUSEを有効にするか無効にするかを設定します。デフォルトは、無効(Disable)です。

また、バックプレッシャーは常に有効であり、無効にすることはできません。

デフォルト: Disable

範囲: Enable、Disable

設定可能なポート: 13、14(13はポートA、14はポートBです)

3 メニューの設定

i フローコントロール機能は、スイッチ内部において受信側の転送速度が送信側の転送速度より遅い場合や、受信パケットが特定のポートに集中する場合に、バッファオーバーフローによってパケットロスが生じることを未然に防ぐ機能です。バッファメモリーを監視し、空きが減少してくると、Half Duplex時はジャム信号を、Full Duplex時はPAUSEパケットを送信側のポートに送出し、一時的に送信を停止させることでフロー制御を行います。

i Full duplex時のフローコントロールは、接続先の機器もIEEE 802.3x PAUSE準拠のフローコントロールをサポートしている場合に限り機能します。

Quit to previous menu

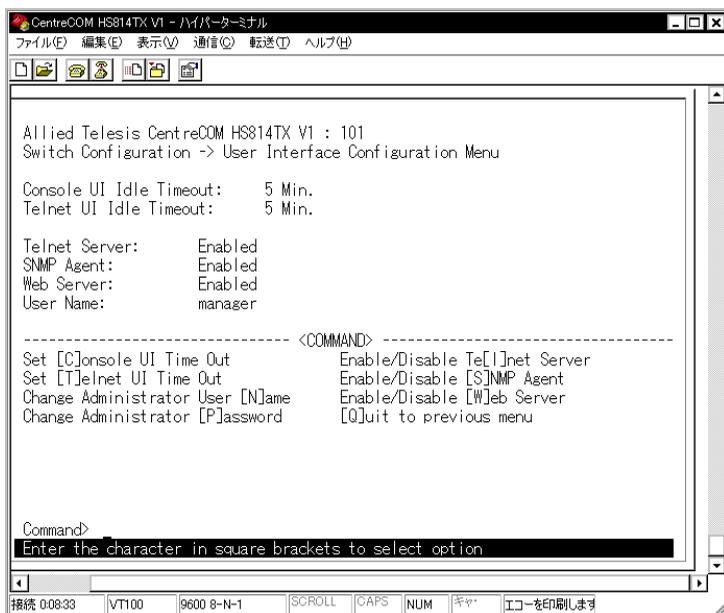
前のメニューに戻ります。

2

ソフトウェアの設定

User Interface Configuration

このメニューでは、ユーザーインターフェース設定を変更することができます。ユーザーインターフェース設定の詳細は、次の通りです。メニュー下部のコマンドラインにコマンド文字を入力することで、各項目の設定を行えます。



Console UI Time Out

ターミナルUIのタイムアウトを設定します。設定したタイムアウト期間が経過したあとにスイッチ制御を行う場合、再度ログインする必要があります。

デフォルト：5分

範囲：0～60分。

（「0」に設定した場合は、この機能が無効になります。）

Telnet UI Time Out

Telnet UIの接続タイムアウトを設定します。設定したタイムアウト期間が経過すると、Telnetは切断されます。

デフォルト：5分

範囲：0～60分。

Change Administrator User Name

スイッチ管理者のユーザー名を変更します。

デフォルト：manager

範囲：12文字以内(半角)

Change Administrator Password

スイッチ管理者のパスワードを変更します。

デフォルト：manager

範囲：12文字以内(半角)

Enable/Disable Telnet Server

Telnetサーバーを有効または無効にします。「Disable(無効)」を選択すると、Telnetによるスイッチの各設定が行えなくなります。

デフォルト：Enable

範囲：Enable、Disable

Enable/Disable SNMP Agent

SNMPエージェントを有効または無効にします。「Disable(無効)」を選択すると、SNMPエージェントによるスイッチの各設定が行えなくなります。

デフォルト：Enable

範囲：Enable、Disable

Enable/Disable Web Server

Webサーバーを有効または無効にします。「Disable(無効)」を選択すると、HTTPによるスイッチの各設定が行えなくなります。

デフォルト：Enable

範囲：Enable、Disable

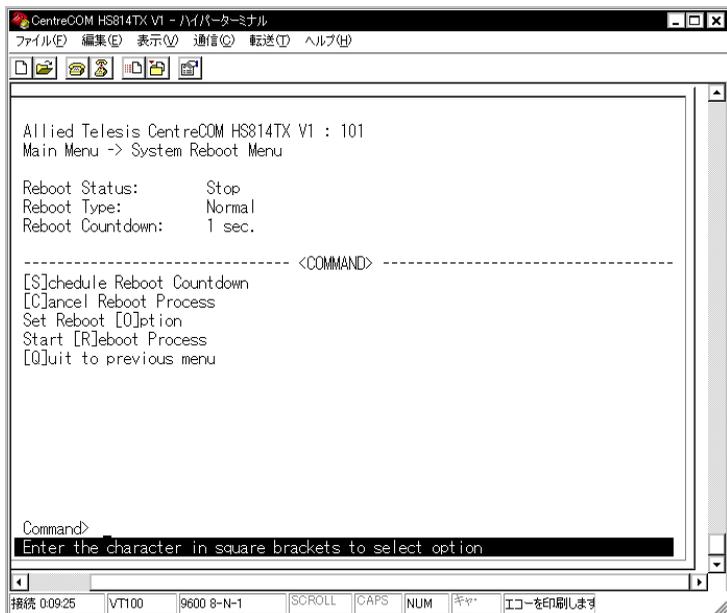
Quit to previous menu

前のメニューへ戻ります。

システムリブート

System Reboot

メインメニューで「R」と入力すると、システムリブートメニューが表示されます。システムリブートメニューでは、システムリブートに関する設定および実際のシステムリブートが行えます。システムリブートについての詳細は、次の通りです。メニュー下部のコマンドラインにコマンド文字を入力することで、各項目の設定を行えます。



Schedule Reboot Countdown

システムをリブートするまでの秒数を設定します。

範囲：1～60 秒

Cancel Reboot Process

リブート処理を中止します。

Set Reboot Option

リブートオプションを設定します。

N(Normal)＝システムリブート後、すべての設定値が保存されます。

F(Factory Default)＝システムリブート後、すべての設定値が工場出荷時の値に戻ります。

I(Factory Default Except IP)＝システムリブート後、IPアドレス以外のすべての設定値が、工場出荷時の値に戻ります。

デフォルト：N

範囲：N、F、I

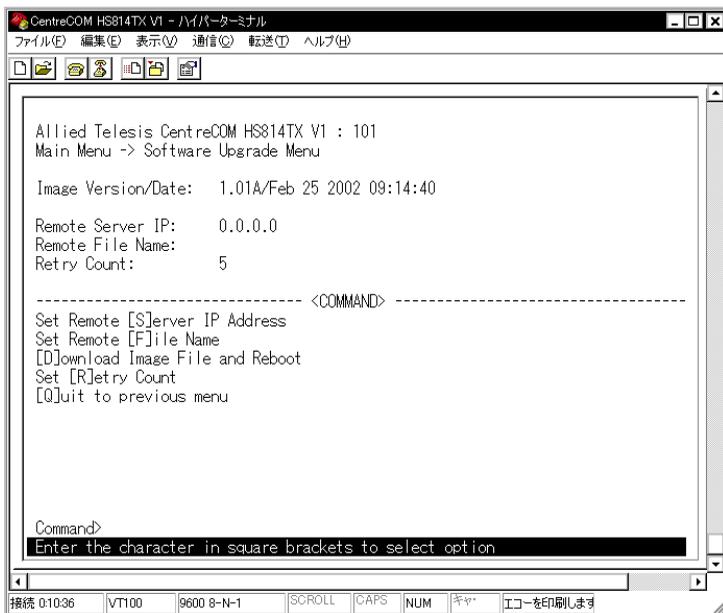
Quit to previous menu

前のメニューへ戻ります。

ソフトウェアアップグレード

Software Upgrade

メインメニューで「U」と入力すると、ソフトウェアアップグレードメニューが表示されます。スイッチで本製品では、ソフトウェアのアップグレードを行うことが可能です。ソフトウェアアップグレードの詳細は、次の通りです。メニュー下部のコマンドラインにコマンド文字を入力することで、各項目の設定を行えます。



Set Remote Server IP Address

ダウンロード対象のソフトウェアが保存されている、リモート TFTP サーバーの IP アドレスを設定します。

デフォルト：0.0.0.0

範囲：「.」で区切られた、4つの10進数で指定

Set Remote File Name

ダウンロード対象のソフトウェアのファイル名を指定します。

デフォルト：空

範囲：30文字以内(半角)

Download Image File and Reboot

ダウンロードを実行し、システムをリブートします。

3 メニューの設定

Set Retry Count

リトライまでの秒数を指定します。

デフォルト: 5

範囲: 1~20

Quit to previous menu

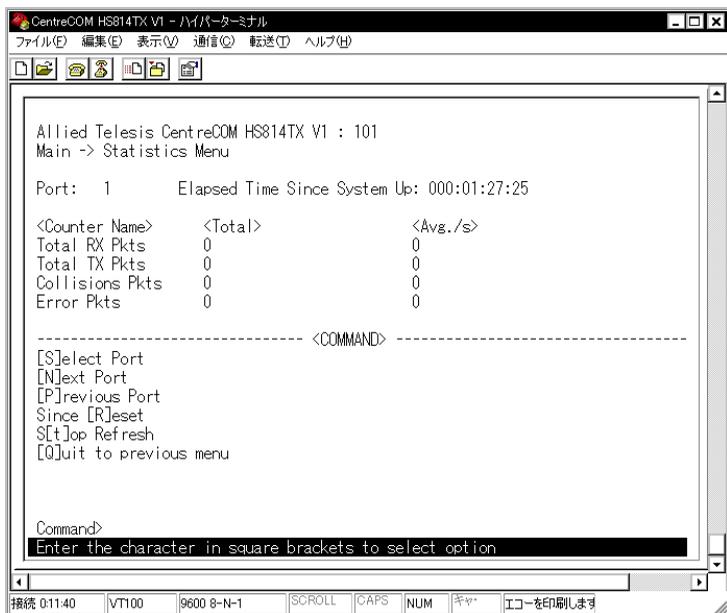
前のメニューへ戻ります。

ネットワーク情報

Statistics

メインメニューで「S」と入力すると、ネットワーク情報メニューが表示されます。ネットワーク情報メニューでは、指定したポートの送受信パケット数、コリジョンパケット数およびエラーパケット数など、パケット情報を表示します。情報は10秒ごとに更新されます。ネットワーク情報メニューについての詳細は、次の通りです。メニュー下部のコマンドラインにコマンド文字を入力することで、各項目の設定を行えます。

尚、Total RX Pkts、Total TX Pkts、Collisions Pkts および Error Pkts の “<Avg./s>” とは、本製品が起動してからカウントしたパケット数を、起動してからの経過時間(単位:秒)で割ったものです。



Select Port

情報を表示したいポートを選択します。

範囲: 1~14(13はポートA、14はポートBです)

Next Port

選択しているポートの次のポートを表示します。

Previous Port

選択しているポートの前のポートを表示します。

Since Reset/Up

現在のポート情報をリセットまたは再計算します。

Stop/Start Refresh

ポート情報のリフレッシュを停止または開始します。

Quit to previous menu

前のメニューへ戻ります。

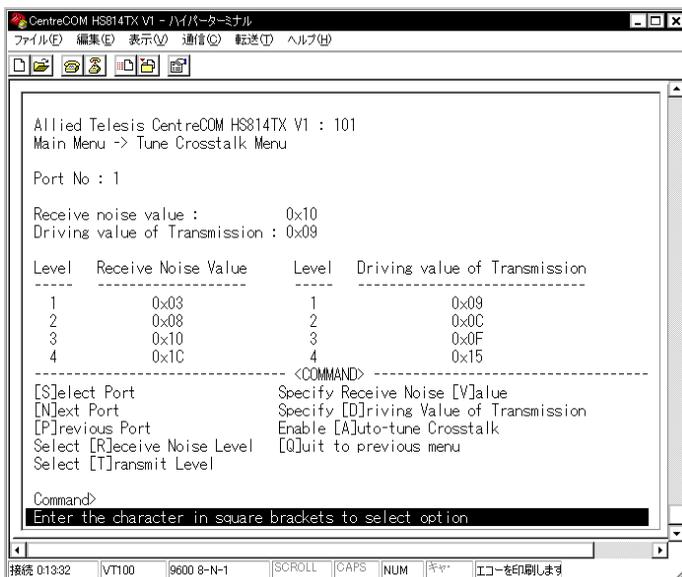
クロストーク調整

Tune CrossTalk

構造が簡単なペア線を多数束ねた構造のケーブルで、あるペア線で伝送される信号が他のペア線に漏れて妨害を与え、信号の欠損や送信遅延の原因となることがあります。これをクロストークと呼び、スイッチ本体や束ねられた電話線が予期しない動作をする可能性があります。

メインメニューで「T」と入力すると、クロストーク調整メニューが表示されます。クロストーク調整メニューについての詳細は、次の通りです。メニュー下部のコマンドラインにコマンド文字を入力することで、各項目の設定を行えます。

i クロストーク設定は、むやみに変更しないでください。設定を変更することで、HomePNAスイッチが予期しない動作をする可能性があります。設定を変更する必要がある場合は、販売会社または工事施工会社へご相談ください。



3 メニューの設定

Select Port

設定するポートを選択します。

範囲：1～12

Next Port

現在、選択されているポートの次のポートを選択します。

Previous Port

現在、選択されているポートの前のポートを選択します。

Select Receive Noise Level

既定の受信ノイズフィルタレベルを選択します。

範囲：1～4

Select Transmit Level

既定の送信レベルを選択します。

範囲：1～4

Specify Receive Noise Level

ユーザー定義の受信ノイズレベルを指定します。

範囲：0x00-0xFF

Specify Transmit Level

ユーザー定義の送信レベルを指定します。

範囲：0x00-0x3F

Auto-Tune Crosstalk

Auto-Tune 機能を有効にし、受信ノイズレベルを自動的に検出します。

検出された値を指定するかどうかを、ユーザーが選択することが可能です。

検出開始前に、メニューに表示されるステップを実行する必要があります。

Quit to previous menu

前のメニューへ戻ります。

3

付 録

この章では、トラブルシューティングおよび製品仕様について説明しています。

1 トラブルシューティング

本製品を使用中になんらかのトラブルが発生したときの対処法について説明します。以下の処置をしても正常に動作しないときは、アライドテレシスサポートセンターまでご連絡ください。

トラブルと思ったら

トラブルが発生したときは、まず発生したトラブルやLEDの状態を確認のうえ、該当の説明をお読みください。

LEDが正しく表示しない

- POWER LEDの確認
POWER LEDが点灯しない場合は、電源ケーブルに断線がないか、電源ケーブルが正しく接続されているか、正しい電源電圧のコンセントを使用しているかなどを確認してください。

POWER LEDが電源投入時に黄色に点灯または点滅する場合は、スイッチが故障しています。1-4 ページ「各部の名称と働き」の「ステータスLED」を参照してください。

- HomePNA ポートの確認
テレホンコードが、HomePNAポートに正しく接続されているか確認してください。
- HomePNA の制限の確認
「HomePNA 構成例」を参照してください。
詳しくは弊社までお問い合わせください。

- 10BASE-T/100BASE-TX ポートの確認
接続先の機器に電源が入っているかを確認してください。
また、コンピューター等に取り付けられているネットワークインターフェースカードに障害がないか、ネットワークインターフェースカードに正しくケーブルが接続され、通信可能な状態にあるかなどを確認してください。

UTPケーブルが正しく接続されているか、正しいUTPケーブルを使用しているか、UTPケーブルが断線していないかなどを確認してください。

また、ケーブルの長さが制限を越えていないか確認してください。

本製品のAポートおよびBポートとコンピューター等を接続するケーブルの長さ、本製品のAポートおよびBポートとリピーターやスイッチを接続するケーブルの長さはすべて100m以内です。

10BASE-T/100BASE-TX ポートが正しく動作しない

- ポートステータスが「有効」になっており、オートネゴシエーション機能が有効になっていることを確認してください(2-11ページ「メニューの設定」の「ポート設定」を参照)。
- 接続先の機器に電源が入っているかを確認してください。
また、コンピューター等に取り付けられているネットワークインターフェースカードに障害がないか、ネットワークインターフェースカードに正しくケーブルが接続され、通信可能な状態にあるかなどを確認してください。
- UTPケーブルが正しく接続されているか、正しいUTPケーブルを使用しているか、UTPケーブルが断線していないかなどを確認してください。
また、ケーブルの長さが制限を越えていないか確認してください。
本製品のAポートおよびBポートとコンピューター等を接続するケーブルの長さ、本製品のAポートおよびBポートとリピーターやスイッチを接続するケーブルの長さはすべて100m以内です。
- カスケード切替スイッチを確認してください。
本製品のカスケードポート(Bポート)を使用して、リピーターやスイッチとカスケード接続する場合は、本製品の**カスケード切替スイッチ**を「= HUB」(MDI)に設定してください。
本製品のカスケードポート(Bポート)同士をカスケード接続する場合は、一方を「= HUB」(MDI)に、もう一方を「X PC」(MDI-X)に設定します。

コンソールからスイッチにアクセスできない

- スイッチはVT100ターミナルとして動作するように設定されています。
コンピューター側のターミナルソフトの設定が正しいことを確認してください。

TelnetやWeb ブラウザーからスイッチにアクセスできない

- IPアドレスが正しく設定されていることを確認し、TelnetサーバーまたはWebサーバーが有効になっていることを確認してください。

2 仕様

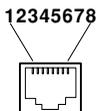
ここでは、本製品に関する詳細な情報を必要とする方を対象に、本製品の動作条件や、コネクターのピンアサインなどを説明します。

コネクター/ケーブル仕様

10BASE-T/100BASE-TX インターフェース

RJ-45 型のモジュージャックを使用しています。

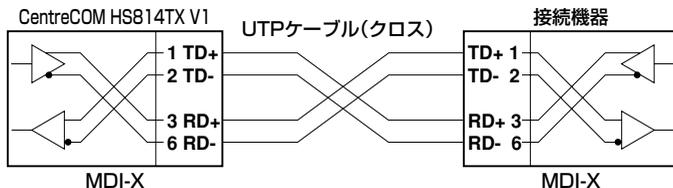
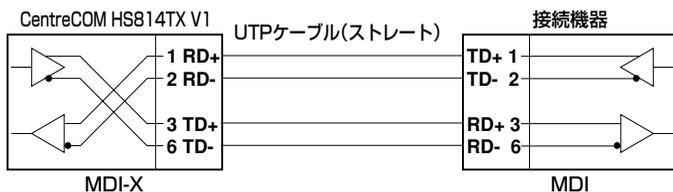
コンタクト	MDI信号
1	RD+ (送信)
2	RD- (送信)
3	TD+ (受信)
4	未使用
5	未使用
6	TD- (受信)
7	未使用
8	未使用



3

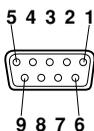
付録

ケーブルの結線は下図のとおりです。



RS-232 インターフェース

D-sub9 ピン(オス)タイプのコネクタを使用しています。



RS-232 DTE	信号名 (JIS規格)	信号内容
1	DCD (CD)	受信キャリア検出
2	RXD (RD)	受信データ
3	TXD (TD)	送信データ
4	DTR (ER)	データ端末レディ
5	SG (SG)	信号用接地
6	DSR (DR)	データセットレディ
7	RTS (RS)	送信要求
8	CTS (CS)	送信可
9	NOT USED	未使用

2 仕様

本製品の仕様

サポート規格	
	HomePNA 1.1 IEEE802.3 10BASE-T IEEE802.3u 100BASE-TX IEEE 802.3x Flow Control
転送モード	
	ストア&フォワード
通信速度	
10BASE-T/100BASE-TXポート	10Mbps、100Mbps
HomePNAポート	1Mbps
MACアドレス登録数	
	8K (最大)
MACアドレス保持時間	
	300秒
メモリー容量	
フラッシュメモリー	1MByte
メインメモリー	2MByte
電源部	
定格入力電圧	AC100V-240V
入力電圧範囲	AC90V-255V
定格周波数	50/60Hz
定格入力電流	2.0A
平均消費電力	13W (最大17W)
平均発熱量	11kcal/h (最大15kcal/h)
環境条件	
保管時温度	-20℃~60℃
保管時湿度	95%以下 (ただし、結露なきこと)
動作時温度	0℃~40℃
動作時湿度	80%以下 (ただし、結露なきこと)
外形寸法	
	440(W)×203(D)×44(H)mm
重量	
	2.8kg
適合規格	
安全規格	UL60950
EMI規格	VCCIクラスA
JATE	AC01-0579JP

4

保証とユーザーサポート

この章では、本製品の保証と、障害の際のユーザーサポート、調査依頼書のご記入方法について説明します。

1 保証とユーザーサポート

保証

本製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」をお読みになり、「お客様インフォメーション登録カード」に必要事項をご記入の上、弊社「お客様インフォメーション登録係」までご返送ください。

「お客様インフォメーション登録カード」が返送されていない場合、保証期間内の無償での修理や、障害発生時のユーザーサポートなどが受けられません。

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害（人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない）については、弊社は、その責を一切負わないこととします。

ユーザーサポート

ユーザーサポートを受けていただく際には、このマニュアルの調査依頼書（CentreCOM HS814TX V1）を（拡大）コピーしたものに必要事項をご記入の上、下記サポート連絡先までFAXしてください。

記入内容などについては、「2 調査依頼書のご記入にあたって」を参照してください。

サポート連絡先

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

Tel: ☎ 0120-860-772

月～金曜日（祝・祭日を除く） 9:00～12:00

13:00～18:00

Fax: ☎ 0120-860-662

年中無休 24時間受付

2 調査依頼書のご記入にあたって

本依頼書は、障害の原因をできるだけ早く見つけるためにご記入いただくものです。ご提供いただく情報が不十分な場合には、原因究明に時間がかかったり、最悪の場合には、問題が解決できないこともあります。

迅速に問題の解決を行うためにも、弊社担当者がお客様の環境を理解できるように、以下の点にそってご記入ください。

記入用紙に書ききれない場合は、プリントアウトなどを別途添付してください。

なお、状況によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

使用しているハードウェアについて

- 製品名、シリアル番号(S/N)、リビジョン(Rev)を調査依頼書に記入してください。シリアル番号、リビジョンは、製品に同梱されている(本体底面に貼付されている)シリアル番号シールに記入されています。

(例)



お問い合わせ内容について

- どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に(再現できるように)記入してください。
- エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトなどを添付してください。

ネットワーク構成について

- ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
- 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

